

第25回基本問題委員会 選択肢の仕上げとその後に向けて

2012年5月28日
幸せ経済社会研究所
枝廣淳子

1

選択肢(3)は曖昧(玉虫色)

選択肢(3)再生可能エネルギーの利用拡大を最大限進め、原子力発電への依存度は2030年に向け低減させる。2030年以降の電源構成は、再生可能エネルギーの普及、原子力安全強化等の成果を踏まえて検討。(原発比率約15%)

2030年段階の原発比率15%は

- a)ゼロに向かって減っていく断面か?
- b)それぐらいは維持するということか?
- c)どう進むかはそこで考えるということか?

2

曖昧さを減らし、議論できる選択肢にするための提案

- 選択肢(2):意思を持って2030年には原発比率ゼロにする
- 選択肢(3):原発依存度は2030年には15%程度残るが、最長「40年廃炉・新增設なし」の時間軸で意思を持ってゼロにする
- 選択肢(4):2030年までは「40年廃炉・新增設なし」で減らしていき、その先はそこで判断する
- 選択肢(5):原発を維持し、原発依存度は3.11以前からほとんど下げない(20~25%)

3

国民的議論に資する提示方法(1) 原発については、%だけでなく、 新增設の量としても提示

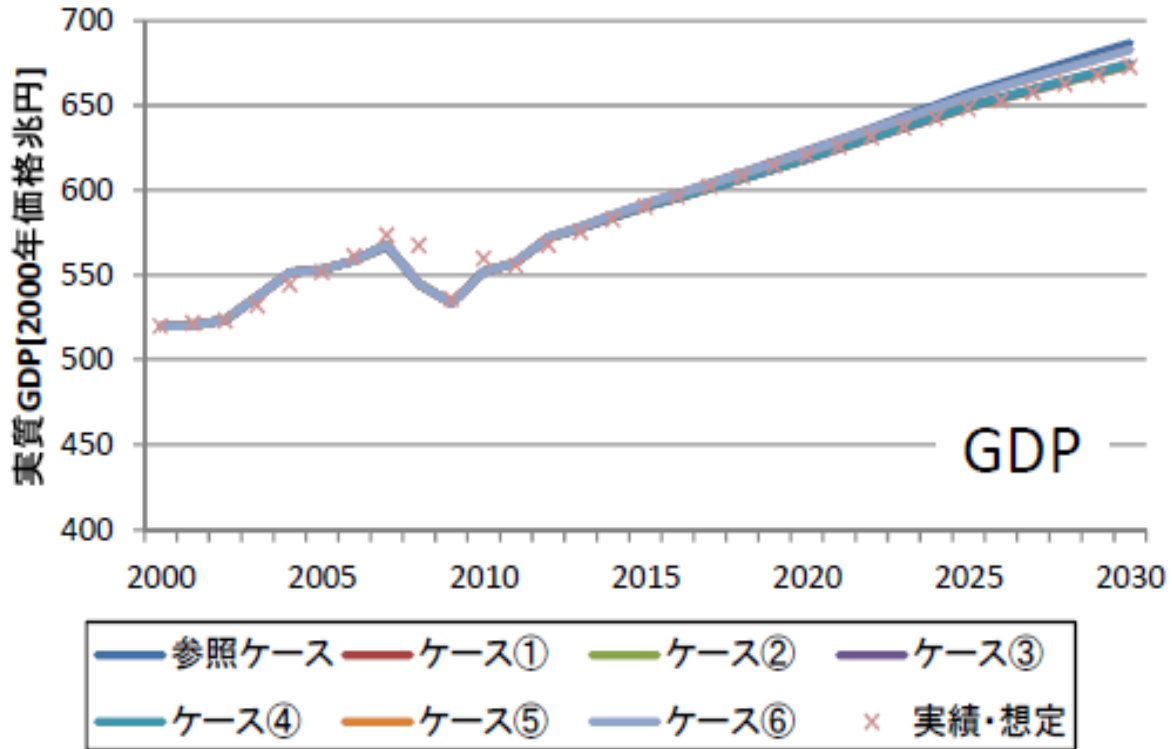
必要となる新增設・リプレース

- 原発比率20%の場合:9基
- 原発比率25%の場合:16基
- 原発比率35%の場合:30基

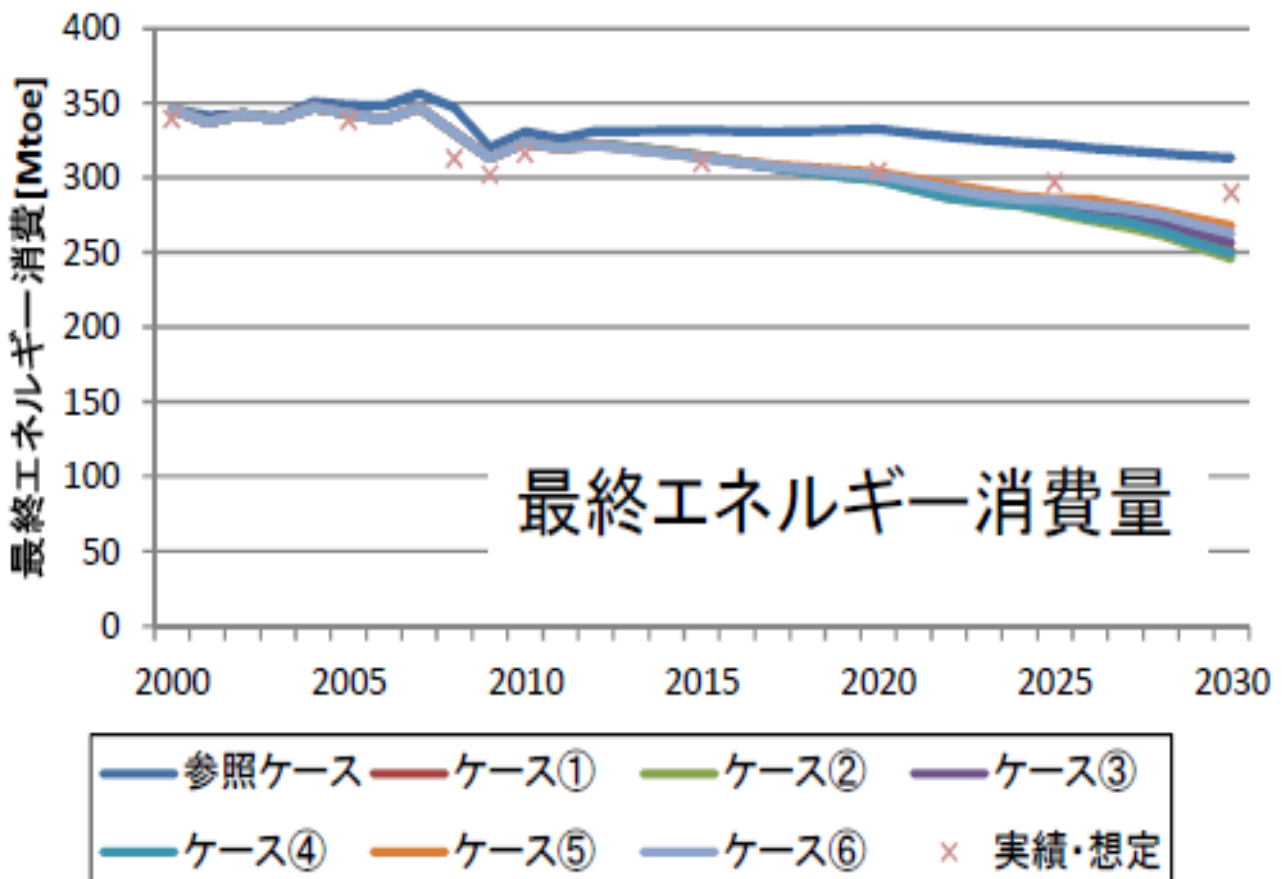
(コスト等検証委員会の120万kW規模、稼働率70%で計算)

4

国民的議論に資する提示方法(2) 局所的でなく、全体的に示す



2012年5月28日 第107回地球環境部会会合資料
 国立環境研究所 AIMプロジェクトチーム「AIM/CGEによる2030年の分析」より 5



2012年5月28日 第107回地球環境部会会合資料
 国立環境研究所 AIMプロジェクトチーム「AIM/CGEによる2030年の分析」より 6

国民的議論に資する提示方法(3) 経済影響分析の説明・取扱の注意をつける

- 経済影響分析の性格、できること/できないこと
- 見るときの注意(例)
 - 比較対象は慎重ケース(2020年まで1.1%成長、2030年まで0.8%成長)の2030年のGDPなので、「マイナス影響」といっても、現在のGDPから減るわけではない
 - 20年間での影響である

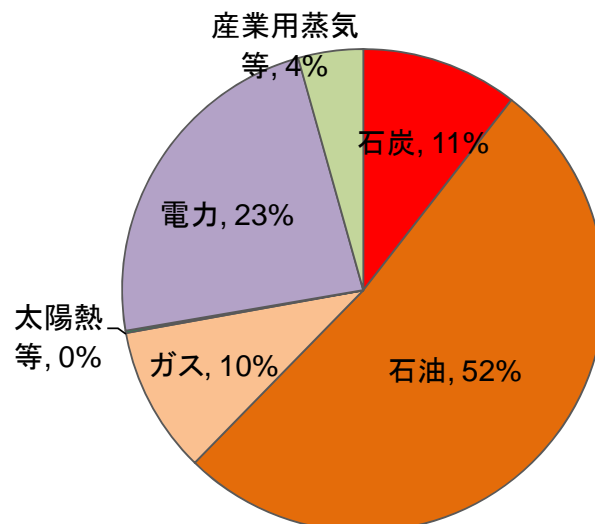
ぜひ作りたいたいで、ご協力をお願いします！

7

これから議論すべきこと

エネルギー基本計画は「電力計画」ではない。
割合の大きいものをしっかり考える

日本におけるエネルギー需要構成



最終エネルギー消費量の構成(2009年)出典:総合エネルギー統計より作成

8

バイオ燃料へのしっかりした目標と施策

- 現行のエネルギー基本計画では、「セルロース、藻類等の次世代バイオ燃料の技術を確立することにより、2030年に最大限の導入拡大を目指す」と記載していますが、具体的な目標を設定せずに「最大限」と言うのは、「できる範囲で」という努力目標にしかありません。
- 今回のエネルギー基本計画では、国民との公開の議論の場も持ちながら、セルロース系や藻類などの第2世代のバイオ燃料の実用化のロードマップを策定し、そのために必要な施策をしっかりと打っていくことが必要だと考えます。

9

「国民的議論」に必要なもの

- 心
政治的意思、国民の意思
- 技
やり方、スキル
- 体
場、チャンネル

10

国民的議論のプロセス



ホップ:どのようにわかりやすく正確に伝えるか

ステップ:だれがどのように議論するか

ジャンプ:その結果をどのように活かすか

11

提案(再掲)

「無作為抽出・対面式調査も」

- 従来型の世論調査(サンプル数は多いが、情報提供や議論は浅い/ない)
- 討論型世論調査(情報提供をしながら深く議論できるが、サンプル数は少なくなる)
- ある程度の情報提供をして考えてもらいながら、意見聴取のできる「structured interview」(20~30分程度の対面式調査)を無作為抽出でまとまった数実施する

12